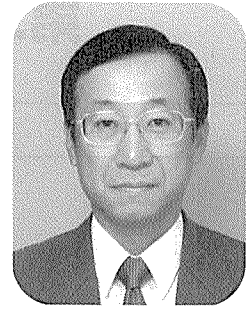


■ 「新日本人」と技術開発



南 敏 和*

アテネオリンピックの幕が華やかに開けられた。本文執筆時はまだ開催中であるが、日本人の活躍は目を瞠るものがあり、メダルも東京オリンピック以来の獲得数になりそうである。実力はありながらメダル獲得を後一步で逃すというのが、最近の日本人お決まりパターンであったように思うが、今回はそうではないようだ。競技前からメダル獲得を公言し実際にやり遂げるといふ、われわれ世代にはやりたくてもできないことを実現している。当然ながら不断の努力と合理的練習に裏づけされた自信があつてこそだが、プレッシャーをプレッシャーと感じず、トップレベルの技を競い合えるという楽しみに昇華してしまう意識改革も大きな要素となっているのではないかと思える。水泳の北島選手などに代表されるこういう人々を、新人類という陳腐な表現でなく「新日本人」と呼ぶそうである。

さて、われわれを取り巻く経済情勢などを顧みると景気は上昇傾向にあるといわれながら、一向に実感としては感じ取れない。国内だけを見ても、今や国内企業だけの競い合いだけでなく、海外からの参入もありグローバル化の荒波に否応なく巻き込まれている。よくいわれるが、そこに「空洞化」が進行しており、忙しいのに儲からない、大学出たけど就職できないなどの状況が不況感を増幅しているようである。

とくにアジア各国とりわけ中国の発展は驚異的ですからある。安い労働力、海外からの投資の集中、政治的な安定を基盤にして、世界の工場の地位を日本から奪いつつある。一方日本の現状は相変わらず「資源小国」で、今や生活資源に至るまで海外に依存している。食糧自給率は30～50%、工業材料に至っては10%未満と考えられる。このよ

うな状況でグローバル化に抗ってみても、経済を大きくし、生活水準の向上を望むかぎり無意味なこととなる。アジアとの共生を図り、逆に大きなマーケットがあると捉えるべきかもしれない。ただこの場合望まれるのは日本の得意分野である技術の移転であり、この面での空洞化は避けようがないと考えられる。

以前、前の米国大統領が「サイエンスというのは、無尽蔵な資源である」という意味のことを教書で述べていたと記憶する。日本は過去、これを実践して高度成長を遂げてきたと思うが、最近停滞傾向であると考えられる。一刻も早くこの停滞を打破し、われわれが供給者となれるような新しいテクノロジーによって新しい産業を創造し、技術の空洞化を防がなければならない。

われわれ、企業団体の立場であれば、これも最近よくいわれていることであるが、Only One, No. Oneの技術、製品の開発ということになるのであろうか。

現在所有している技術のより高度化（コストダウンも含め）を図りながら、明日に繋がる新しい技術と新製品の開発をおこなっていかなければならない。この面でわれわれ技術屋の責務は重大であるが、不況になれば第一に技術開発部門が縮小される傾向にある。こういう状況においては、自ら技術開発で世界と競っていくのだという強い意識改革が必要である。

また技術開発に関しては人材も必要である。われわれ世代の責務として、技術分野においてもスポーツ界に負けないよう、グローバルな視点で競い合える「新日本人」と呼べる若い力を育成していくことも必要であることを肝に銘じておかなければならないと考えている。

* Toshikazu MINAMI : 本協会監事 神鋼鋼線工業(株) 理事 開発本部長